

# 農林水産委員会 県内所管事務調査の概要

【令和元年6月3日（月）】

## ◆調査箇所：農事組合法人ひがし営農組合（杵築市大字熊野）

＜概要＞

農事組合法人ひがし営農組合は、農事組合法人年田集落営農生産組合と宝財営農組合の合併により誕生し、それぞれの組合の課題であったオペレーター不足の解消、管理できなくなったほ場の受け手の確保に取り組んでいる。合併により、任意組織の若手兼業農家が加入し、経営面積も拡大した。

今回の視察では、法人の概要と経営力強化の取組等について調査を行った。



＜主な質疑等＞

- ・組合員の高齢化への対応について
- ・畑地化の取組について
- ・センチピードグラスの吹き付けについて

## ◆調査箇所：ウーマンメイク株式会社（国東市安岐町大添）

＜概要＞

ウーマンメイク株式会社は、女性のみで起業し、水耕栽培でリーフレタス（ブランド名：やさいまま）を栽培する農業生産法人である。子育てや介護中の女性でも働きやすい柔軟な勤務体系や職場環境の整備を行っており、栽培品目も腕力の弱い女性が扱いやすいものとなっている。

今回の視察では、起業に当たっての苦労や女性が働きやすいよう工夫した点等について調査を行った。



＜主な質疑等＞

- ・ハウスの管理について
- ・起業する際の初期投資について
- ・水耕栽培の利点について

## ◆調査箇所：東部振興局、農林水産研究指導センター農業研究部果樹グループ

＜概要＞

東部振興局（管轄：別府市、杵築市、国東市、姫島村、日出町）及び農林水産研究指導センター農業研究部果樹グループから、組織及び管内の概要や水田畑地化の推進、新規就農者確保などの主要事業、温州ミカンチームのハウスミカン栽培における適正水分管理技術と省力・高収益栽培技術の開発など重点研究課題の概要・進捗状況等について調査を行った。



＜主な質疑等＞

- ・農産物の流通について
- ・新規就農者の研修終了後のフォローについて
- ・種なしカボスの今後の見通しについて

◆調査箇所：有限会社鈴木養鶏場（日出町藤原）

<概要>

有限会社鈴木養鶏場は、鶏卵の生産・加工・販売、有機肥料の生産・販売を行っている。生産から販売までを自社で行う6次化経営や飼料米給与等による高付加価値卵の生産等が特色であり、鶏糞を利用した有機肥料が飼料用米の栽培に利用されることで、資源循環型農業の推進にも貢献している。

今回の視察では、畜産クラスター事業による鶏舎等の施設整備状況等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・飼料用米の利用について
- ・大手養鶏場に対抗するための戦略について

【令和元年6月11日（火）】

◆調査箇所：南部振興局、農林水産研究指導センター水産研究部

<概要>

南部振興局（管轄：佐伯市）及び農林水産研究指導センター水産研究部から、組織及び管内の概要や水産業の振興、林業・農業の生産体制確立などの重点課題、食やユネスコエコパークを活かした観光地づくりなどの主要事業、ブリの完全養殖、新たな「かぼす魚」の開発など水産に係る調査研究課題の概要・進捗状況等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・管内の新規就農者の動向について
- ・鳥獣害の被害額について
- ・天然魚の漁獲量及び市場単価について

◆調査箇所：農事組合法人城村（佐伯市大字長谷）

<概要>

農事組合法人城村は、平成18年に法人化し、農地の高度利用を進めるとともに、特別栽培米やもち米・麦の契約栽培、園芸品目の導入など、経営安定に取り組んでおり、また、地域の農地利用調整を行い、新規就農者の農地を確保している。

今回の視察では、法人の概要と将来にわたる営農継続の取組等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・契約栽培の取引先の開拓について
- ・集落営農の取組の地域性について
- ・農作業の機械化について

◆調査箇所：大分県漁業協同組合 水産物加工施設（佐伯市米水津色利浦）

<概要>

大分県漁業協同組合では、平成23年に設置した佐伯市の水産物加工処理施設においてブリ類のフィレ（3枚おろし）加工を行っており、需要増を受けて年々生産量が増加している。そのため、平成29年度にマシンの増設を行い、需要の高まっているロイン（フィレをさらに細かく加工したもの）の生産体制を確立した。

今回の視察では、施設や機器の概要や加工処理の状況等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・加工する魚の魚種や水揚げされる地域について
- ・海外への輸出について
- ・加工後の内蔵等の処理について

◆調査箇所：双日北海道与志本株式会社 大分工場（佐伯市女島区西浜）

<概要>

双日与志本林業株式会社の子会社である双日北海道与志本株式会社は、平成30年4月、佐伯市に大分工場を新設し、操業開始した。梱包材とパレットの部材を製造しており、材料となるスギの低質材が佐伯市で調達されることにより、佐伯地域の木材の安定需要が見込まれている。

今回の視察では、工場を視察し、製品の生産状況や地元の木材の利用について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・佐伯市に工場を新設した理由について
- ・木材価格について
- ・梱包材等の需要について

【令和元年6月12日（水）】

◆調査箇所：JAおおいと豊肥地域 ピーマン広域選果場（豊後大野市大野町大原）

<概要>

大分県農業協同組合は、ピーマンの県域出荷の取組を行っている。ピーマン選果拠点施設を県内3か所に整備する計画を進めており、豊後大野市及び竹田市の選果施設を再編して豊後大野市に共同選果場を整備した。「活力あふれる園芸産地整備事業」を活用し、新たな選果ラインや予冷施設が増設されたほか、安全・安心の確保のためのトレーサビリティシステムも備えている。

今回の調査では、施設の整備状況や広域化の効果について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・人手不足や季節労働となることへの対応について
- ・集荷態勢について
- ・他の産地とのすみ分けについて

◆調査箇所：豊肥振興局、農林水産研究指導センター農業研究部、農業大学校、豊後大野家畜保健衛生所、県央飛行場管理事務所

<概要>

豊肥振興局（管轄：竹田市、豊後大野市）及び農林水産研究指導センター、農業大学校、豊後大野家畜保健衛生所及び県央飛行場管理事務所から、組織及び管内の概要、担い手への農地集積・集約化、他産地に負けないブランド力の強化、生産基盤整備など主要事業、各種試験研究の成果・普及状況、農業大学校での教育・研修の状況、家畜伝染病予防対策、県央飛行場の管理等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・管内の農業における地域おこし協力隊の活用状況について
- ・「甘太くん」の輸出状況について
- ・鳥獣被害の増加要因について

◆調査箇所：有限会社大地農場（竹田市菅生）

<概要>

竹田市で飼料及び鶏卵の販売を行う有限会社藤野屋商店の養豚部門として昭和58年に設立された有限会社大地農場は、ブランド豚「久住高原ハーブ豚」を生産している。平成28年度に県域統一豚ブランド「米の恵み」の確立のため設立した「おおいた豊後ポークブランド確立クラスター協議会」の構成員として、飼養規模1,800頭の新豚舎を建設した。

今回の調査では、施設を視察し、生産工程や環境対策について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・環境への配慮（廃水・臭気）について
- ・能力の高い雄豚の確保について
- ・伝染病対策について

◆調査箇所：工藤修平氏 肉用牛繁殖経営体確保・働き方改革推進事業（竹田市久住町）

<概要>

工藤修平氏は、肉用牛繁殖経営の新規就農者である。平成30年度に「肉用牛繁殖経営体確保・働き方改革推進事業」を活用して50頭規模の牛舎等を整備し、今年就農する。肉用牛繁殖母牛20頭を導入予定であり、今後、さらに増頭を行っていく計画である。

今回の調査では、整備した牛舎や経営の見込みについて調査を行った。



<主な質疑等>

- ・休みなどの就労環境について
- ・増頭計画について
- ・発情監視システムについて

【令和元年6月18日（火）】

◆調査箇所：農林水産研究指導センター農業研究部花きグループ（別府市鶴見）

<概要>

農林水産研究指導センター農業研究部花きグループから、組織の概要や試験研究方針、ホオズキのウイルス病総合防除対策、スイートピーの安定生産技術の確立とオリジナル品種の育成など、これまでの試験研究の内容・成果の普及状況等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・ホオズキの出荷期間平準化のための冷蔵保存施設について
- ・花きグループ施設内の地熱発電について

◆調査箇所：柚ノ木地区 経営体育成基盤整備事業（由布市庄内町北大津留）

<概要>

柚ノ木地区は、急勾配な水田地帯であり、農地が狭く散在していたことから営農に支障を来していた。そのため、経営体育成基盤整備事業により、区画整理等の生産基盤の整備と農地集積促進のための研修や普及啓発活動を行い、生産性の向上と営農コストの低減を図っている。

今回の調査では、現在事業中の現地を視察しながら、ほ場整備の状況や農地集積計画について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・後継者の確保について
- ・事業実施にあたっての地権者の同意について
- ・ほ場整備工事の落札状況について

◆調査箇所：由布市庄内町なし園地（由布市庄内町中）

<概要>

由布市庄内町では、平成26年に生産者、県、市、農業委員会、JAで「庄内梨園地流動化促進協議会」を設立し、研修制度の充実と園地の流動化に取り組んでおり、生産者全戸の意向調査（後継者の有無、継続の意思、園地条件など）を実施してマップ化により情報を共有したり、相談窓口の一元化などを行っている。

今回の調査では、流線型仕立ての導入により早期成園化に取り組む園地を視察するとともに、協議会の取組状況について調査した。



<主な質疑等>

- ・高齢化による担い手不足への対策について
- ・新規就農者に対する支援について
- ・なし栽培の作業負担軽減について

◆調査箇所：中部振興局、大分家畜保健衛生所

<概要>

中部振興局（管轄：大分市、臼杵市、津久見市、由布市）及び大分家畜保健衛生所（管轄：大分市、別府市、臼杵市、津久見市、由布市）から、組織及び管内の概要、畜産の振興、農林水産業の担い手確保の取組、「人・農地プラン」策定と農地中間管理事業の取組、集落営農の推進、有害鳥獣対策、家畜伝染病対策などの主要事業の概要並びに進捗状況等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・ため池の点検状況について
- ・竹の有効活用や竹害について
- ・くろめの生産状況について

【令和元年6月21日（金）】

◆調査箇所：大分ほっぺリーフ株式会社（大分市松岡）

<概要>

熊本県で施設野菜を生産する有限会社ベジタル・ユーが卸売業の株式会社JOINと共同出資した大分ほっぺリーフ株式会社は、ベビーリーフで農業に新規参入した。九州有数の大規模耐候性ハウス（100mハウスの32連棟）を使って周年栽培を行っており、今後、販売額や雇用者数を増加させていく計画である。

今回の調査では、ハウスを視察し、今後の経営計画について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・今後の計画、販路の拡大について
- ・RORO船の活用について
- ・付加価値を高める工夫について

◆調査箇所：深良津二世養殖漁業生産組合（津久見市四浦）

<概要>

深良津二世養殖漁業生産組合は、津久見市四浦のきれいな海水を利用し、ヒラメなどの養殖を行っている。県では、当組合の協力を受け、緑色LED光を当てることで養殖ヒラメの成長を促進する技術の実証試験に取り組んでおり、通常のヒラメよりも早く成長するという結果を得ている。

今回の調査では、養殖場での実証試験を視察し、試験の成果や技術の普及について調査を行った。



<主な質疑等>

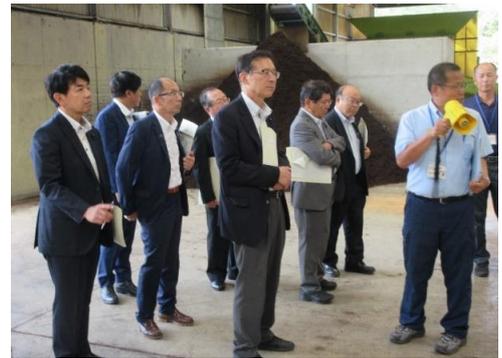
- ・新技術の県内での普及について
- ・緑色LED光の照射に係るコストの低減について
- ・早期出荷を生かした販売戦略について

◆調査箇所：臼杵市土づくりセンター（臼杵市野津町八里合）

<概要>

臼杵市では、安全・安心な「ほんまもん農産物」を生産することができる土づくりを進めるため、完熟堆肥を製造する「土づくりセンター」を運営している。同センターで製造した「うすき夢堆肥」は臼杵市内で販売されており、臼杵市では、農業者が有機農業に取り組みやすい環境づくりを進めていく方針である。

今回の調査では、センターでの堆肥製造の状況を視察し、臼杵市における有機農業の推進状況について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・うすき夢堆肥の販売先、販売方法について
- ・完熟堆肥の効果について

【令和元年6月26日（水）】

◆調査箇所：有限会社グリーンストック八幡（玖珠町山下）

<概要>

有限会社グリーンストック八幡は、平成10年に地域の肉用牛後継者たちにより設立され、耕作放棄地を活用した粗飼料生産に取り組むとともに、繁殖経営の規模拡大を進めている。また、周辺農家の高齢化により、粗飼料生産や牧野管理の作業受託も増え、地域の農業の担い手として活躍している。

今回の調査では、施設を視察し、各事業の状況や畜産経営の課題について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・畜産経営のコスト削減について
- ・県産種雄牛について

◆調査箇所：大分県農協中西部事業部日田西瓜部会長

中島哲男氏（日田市山田原）

<概要>

大分県農協中西部事業部日田西瓜部会長の中島哲男氏は、日田白菜部会長（H16～20）、指導農業士（H2～15）を務めるなど、地域農業のリーダーとして活躍している。九州北部豪雨災害の際も、被災後の対策や復旧に取り組み、西瓜部会は平年と変わらない出荷量を維持することができた。

今回の調査では、西瓜部会の概要を調査するとともに、自身も西瓜と白菜の大規模露地野菜栽培を行う中島氏の農業経営の状況を調査した。



<主な質疑等>

- ・後継者不足の原因、人手の確保について
- ・尺玉西瓜栽培の取組状況について
- ・輸出の可能性について

◆調査箇所：東原地区 災害関連緊急治山事業（日田市大字鶴河内字東原）

<概要>

日田市大字鶴河内の東原地区では、平成29年7月の九州北部豪雨による急激な出水の影響を受け、山腹が崩壊し、土石流が発生した。これにより森林、農地、県道等に被害が発生したため、復旧工事（災害関連緊急治山事業）を進めてきた。

今回の調査では、工事の概要を調査するとともに、現地の復旧状況の視察を行った。



<主な質疑等>

- ・崩壊箇所の山林の状況、特色について
- ・発災時の状況について
- ・工事の落札状況について

◆調査箇所：西部振興局、農林水産研究指導センター林業研究部、  
玖珠家畜保健衛生所

<概要>

西部振興局（管轄：日田市、九重町、玖珠町）及び農林水産研究指導センター林業研究部及び玖珠家畜保健衛生所から、組織及び管内の概要や園芸品目の導入状況、「良食味米プロジェクト」の取組状況、林業の振興などの主要事業、林業重点研究課題の概要・進捗状況並びに家畜伝染病予防等の取組等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・日田梨の輸出状況について
- ・林業の研究成果のフィードバック、研究を進める上での課題について
- ・豚コレラ予防の取組について

【令和元年6月27日（木）】

◆調査箇所：梶ヶ原地区 災害関連緊急地すべり防止事業（中津市耶馬溪町金吉）

<概要>

平成30年4月に中津市耶馬溪町金吉で発生した山地災害では、死者6名、人家の全壊4棟などの大きな被害があった。現地では、災害発生直後から応急復旧対策に取り組み、30年9月には地すべり防止工等の本復旧工事に着手し、現在も早期完成を目指して事業に取り組んでいる。

今回の調査では、現地を視察し、工事の概要や進捗状況を確認した。



<主な質疑等>

- ・山地崩壊の原因について
- ・危険箇所の判定手法について
- ・避難した住民の状況について

◆調査箇所：北部振興局、農林水産研究指導センター農業研究部水田農業グループ、水産研究部北部水産グループ、宇佐家畜保健衛生所

<概要>

北部振興局（管轄：中津市、豊後高田市、宇佐市）及び農林水産研究指導センター農業研究部水田農業グループ、水産研究部北部水産グループ、宇佐家畜保健衛生所から、組織及び管内の概要、白ねぎ・いちご等の園芸戦略品目の産地づくり推進など主要事業、多収型優良品種の導入に向けた栽培法、アサリ資源回復に関する調査研究など重点研究課題の概要と進捗状況、家畜伝染病予防事業等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・農業機械の自動運転による農業経営の低コスト化について
- ・防災重点ため池について
- ・干潟の栄養分の状況について

◆調査箇所：宇佐地区 農業競争力強化基盤整備事業（宇佐市江須賀ほか）

<概要>

宇佐地区では、区画が狭く農作業の効率が悪かったことから、平成26年度から農業競争力強化基盤整備事業により、ほ場の大区画化や水管理の省力化を図る地下水水位制御システムを導入し、用水路においてはパイプライン化等の基盤整備を実施している。これにより担い手への農地集積・集約化と生産コストの削減を目指す。

今回の調査では、宇佐地区の整備状況や事業の効果、当地区の経営者が行っているスマート農業の取組について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・担い手への集積方法について
- ・農業経営の低コスト化について
- ・乾田直播について

◆調査箇所：宇佐ジビエファクトリー（宇佐市院内町香下字釜破）

<概要>

宇佐ジビエファクトリーは、食肉加工卸業の有限会社サンセイがジビエ・食肉処理加工施設として平成30年に開設した施設で、地域活力づくり地域創生事業費補助金を活用して施設整備を行った。猟友会等と連携して、捕獲されたシカ等の有害鳥獣をジビエとして販売し、ジビエの普及促進と消費拡大に取り組んでいる。

今回の調査では、施設の整備状況や事業概要、ジビエ普及に向けた課題について調査を行った。



<主な質疑等>

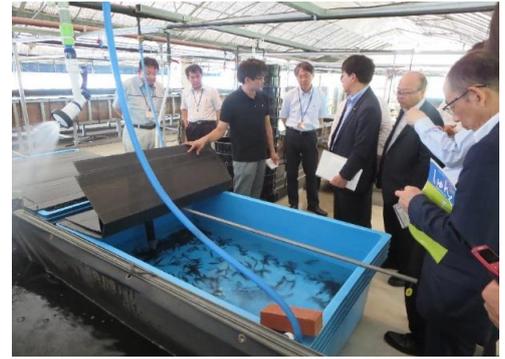
- ・高品質のジビエを提供するための工夫について
- ・処理施設の経営状況や販売価格について
- ・ジビエの学校給食等での活用について

◆調査箇所：宇佐養魚株式会社（宇佐市院内町月俣）

<概要>

宇佐養魚株式会社は、県の内水面研究所（当時）が開発した屋内無泥養殖技術を導入し、ドジョウの養殖を行っている。養殖に適した井戸水を掘削したことで、大量養殖が可能となった。養殖されたどじょうは、身が泥臭くなく、ふっくらしており（昔のドジョウに近いとも言われる。）、東京・浅草や北陸地方にも出荷されている。

今回の調査では、施設を視察するとともに、ドジョウ養殖の課題について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・県の試験研究機関との連携、研究を要する課題について
- ・生産・輸送コストや販売価格について
- ・注文に対応するための苦勞について